景山氏が初当選

参院選島根選挙区

前職岩本氏に3万1千票差

自民議席を奪還

初当選を決め、両手を上げて支持者の声援にこたえる景山俊太郎氏。左は良子夫人＝23日午後８時55分、松江市嫁島町の選挙事務所

開票結果（23日22時23分　選管最終）

当176,946票	景山俊太郎	51	自民新
145,189票	岩本　久人	52	無　前
47,118票	高島　　望	35	新進新
24,729票	上代　善雄	40	共産新

第十七回参院通常選挙は二十三日投票、即日開票され、改選数一の島根選挙区は自民党新人の景山俊太郎氏（五一）が十七万六千九百四十六票を獲得、初当選を果たした。六年前の参院選で、十二年ぶりに革新議席を得た無所属前職の岩本久人氏（五二）＝社会推薦＝は再選を阻まれた。比例代表選との相乗効果を狙った新進党新人の高島望氏（三五）＝公明推薦＝、共産党新人の上代善雄氏（四〇）はともに現状批判票をまとめ切れなかった。有権者の関心低下を反映、投票率は六七・〇九%で、県内の国政選挙としては昭和三十年の六三・一五%（参院補欠選）に次ぐ低い記録となった。（19面に関連記事）

開票は午後七時から五十九開票所で始まり、県選管は午後八時半から十五分ごとに全体速報を発表。町村票の開く序盤で首位に立った景山氏が、午後九時前には当選を確実にし、最終的に岩本氏に三万一千票余りの差を付けた。

景山氏は公示前までに県内を四巡、町村集落ごとに集会を開き知名度不足に対応。衆院小選挙区選挙を意識した各衆院議員も次期出馬区をきめ細かく回ったほか、同個人後援会による派閥を超えた協力態勢が組織引き締めに奏功。投票率低下の中で手堅い票を巧みに取りまとめた。

「当確」の報から間もなく松江市嫁島町の選挙事務所に姿を見せた景山氏は「公平で公正な社会をつくり、だれもが充実できる政治を目指す」と初当選の抱負を話した。

再選を目指した岩本氏は、エンジン全開に時間が掛かる労組選挙特有の事情が、支持層拡大の面でブレーキになった。母体になる自治労は、組織内候補を担ぐ県職労と、地域集票運動の最前線に立つ市町村職労との間に微妙な意識のズレが生じたのは否めない。

さらに六年前にはなかった連合推薦を得たものの、旧民社系労組の中には比例区運動に重心を置く組合も見られた。戦前から「承知の上の温度差」ではあったが、組織内が与野党に分かれる連合にとって今後にも課題を残した。

高島氏は、国政選挙に初めて参戦する新進党の「新鮮味と若い行動力」を強調。戦術的には県内の政治体質批判を、無党派層取り込みの武器にした。比例代表選を視野に入れた公明の後押しで組織票を獲得、健闘はしたものの、知名度不足を補う絶対的な材料にはならなかった。

上代氏は、参院選に三回連続挑戦の今回も共産党色を前面に政策本位の戦い。自社さ連立政権の発足から一年、これまで以上に「党の独自性」や「オール与党批判」を強めたが、選挙そのものへの有権者の関心が低い中で、支持を広げることができなかった。

景山俊太郎氏の略歴

掛合町掛合（本籍・同）。早稲田大学大学院（政治学研究科）卒。短大講師を経て昭和四十六年から県議を連続六期。平成二年に県議会議長（一期）。現在、斐伊川漁協代表理事、社会福祉法人役員、県相撲連盟会長、県どう太鼓連盟会長。

景山俊太郎氏の話　農、商工振興に全力

党組織、ボランティアなど幅広い県民の結束で、当選させていただいた。政局安定の訴えに大きな支持が寄せられたものと感じている。二十四年間の県議経験を生かし、農業、商工業の振興、若者から高齢者までに生きがいを与える社会づくりなどに全力を挙げて取り組みたい。

組織の厚さで明暗

自民"身内囲い込み"徹す

＜解説＞

無党派層を独り占めにする候補もなく、支持組織層の厚さがそのまま勝敗を左右した。

景山氏陣営は候補決定から一年という十分過ぎる準備期間中に党内意識を「党勢拡大選挙」でまとめ、満を持して舌戦に突入。旧来からの自民支持者を手堅く取りまとめた。無党派層には目もくれない"身内囲い込み"の戦術に徹した、オーソドックスな従来型選挙と言えなくもない。

自民は派閥横断的に協力し合う党営選挙を展開。勝手の違う運動形態に、一部地域や一部末端支持者に違和感はあった。しかし、各派が幹部名簿を交換したほか、斐川町など一部の地域支部では役員改選によって派閥解消を実現するなど、かつてない強力な連合態勢で先行逃げきりの勝利。半面、次期衆院選の予行演習という観点からは、「過半数得票で合格」としていた目標にはおぼつかなかった。

一方の岩本氏は労働組織票にプラス浮動票が勝利の絶対条件だったが、マイナスの複合要素が絡み支持層の広がりを欠いた。六年前の参院選では「消費税阻止の候補」として議席の持つ意味を明確にアピールできたが、今回は争点を鮮明にする切り札がなかった。が、本当になかったかどうかは疑問。連立政権を組む政党間の力のバランスという観点から、一党独走のブレーキ役を社会党に期待する有権者は多かったはずだ。しかし、無所属を名乗る岩本氏には選挙戦の持つ意味や、社会党の役割を有権者に広く、深く感じ取ってもらうだけの迫力が不足した。逆に、「政権党」を強調すればするほど「庶民代表」のイメージとは懸け離れていった。

政策論争が擦れ違いに終わった要因は他にもある。岩本、高島両氏が「県内の古い政治体質の打破」で自民攻撃を仕掛けたのに対し、真っ向から応じない景山氏は、国政レベルの「政局安定」で、堅い自民支持者に視線を集中した。

政策公約でも「政策の実現可能性」（景山氏）、「福祉と地方分権」（岩本氏）はともに目指す中身が有権者には分かりにくく、結局は組織対決の部分だけがクローズアップされた。

ある面では、政党論理を強調して戦った景山氏は、候補の顔が見えずじまい。抽象論の多い公約について「今は新人候補の身。具体的政策は当選後に」と答えた景山氏の公約が果たされるかどうか、今後の政治活動で実証する責務を背負わされる。

高島、上代両氏も現状不満票の受け皿にはなり切れず、得票数字の上から見ると公明、共産に寄り掛かる組織選挙の側面が強かった。（本社報道部・槙野俊徳記者）

市町村別得票と投票率　島根選挙区

市町村名	景山俊太郎	岩本久人	高島望	上代善雄	投票率（%）
松江市	22,240	23,917	8,878	5,357	56.42
浜田市	7,269	10,537	2,572	876	58.47
出雲市	16,545	11,533	5,005	2,583	56.60
益田市	9,839	10,572	3,105	1,252	64.59
大田市	8,125	6,805	2,154	1,489	68.37
安来市	5,479	6,452	2,140	869	62.19
江津市	5,040	5,714	1,654	1,315	67.35
平田市	7,823	5,211	1,512	750	66.35
市計	82,360	80,741	27,020	14,491	60.30
鹿島町	1,910	1,891	600	190	66.14
島根町	1,782	770	358	106	78.91
美保関町	2,722	1,045	489	218	75.68
東出雲町	2,271	2,294	826	567	68.79
八雲村	1,393	1,321	518	274	69.76
玉湯町	1,520	1,253	413	136	71.16
宍道町	2,922	1,868	630	310	77.64
八東町	1,249	654	340	218	66.56
八束郡計	15,769	11,096	4,174	2,019	71.70
広瀬町	2,932	2,059	770	269	77.87
伯太町	1,406	1,277	342	162	71.37
能義郡計	4,338	3,336	1,112	431	75.51
仁多町	3,553	1,507	586	182	81.97
横田町	2,760	1,305	668	239	75.99
仁多郡計	6,313	2,812	1,254	421	79.10
大東町	4,523	3,176	811	1,059	79.34
加茂町	2,309	1,284	401	196	80.32
木次町	3,334	2,384	662	267	80.85
大原郡計	10,166	6,844	1,874	1,522	80.03
三刀屋町	3,825	1,552	301	148	85.34
吉田村	1,225	557	79	32	89.03
掛合町	2,278	547	135	67	90.14
頓原町	1,397	581	131	74	85.70
赤来町	1,628	594	191	125	85.30
飯石郡計	10,353	3,831	837	446	86.73
斐川町	7,495	4,162	1,311	1,002	71.12
佐田町	1,694	1,107	293	136	83.51
多伎町	1,665	720	276	162	85.52
湖陵町	1,248	1,183	339	177	67.06
大社町	4,987	2,779	1,108	521	71.36
簸川郡計	17,089	9,951	3,327	1,998	72.95
温泉津町	1,246	1,126	298	152	75.13
仁摩町	1,390	1,088	348	184	70.62
邇摩郡計	2,636	2,214	646	336	72.73
川本町	1,571	1,336	318	128	79.91
邑智町	1,639	1,017	420	236	80.24
大和村	806	448	178	63	83.81
羽須美村	909	531	194	34	81.23
瑞穂町	1,765	1,237	301	279	83.62
石見町	2,122	1,354	486	267	79.82
桜江町	1,413	914	291	72	85.76
邑智郡計	10,225	6,837	2,188	1,079	81.71
金城町	1,538	1,421	298	136	78.66
旭町	1,154	1,102	162	53	87.47
弥栄村	635	591	85	24	87.74
三隅町	1,920	2,285	602	251	75.75
那賀郡計	5,247	5,399	1,147	464	79.91
美都町	683	868	180	176	81.33
匹見町	822	485	135	50	85.21
美濃郡計	1,505	1,353	315	226	82.98
津和野町	1,324	1,697	457	315	72.03
日原町	1,144	1,486	269	108	80.28
柿木村	491	508	145	109	78.16
六日市町	1,265	1,066	625	292	67.88
鹿足郡計	4,224	4,757	1,496	824	73.40
西郷町	2,975	3,051	767	252	68.16
布施村	192	141	45	5	83.80
五箇村	786	505	139	33	84.37
都万村	644	590	146	40	81.70
海士町	784	745	276	47	81.90
西ノ島町	1,076	717	323	79	67.07
知夫村	264	269	32	16	82.43
隠岐郡計	6,721	6,018	1,728	472	72.83
町村計	94,586	64,448	20,098	10,238	76.39
県計	176,946	145,189	47,118	24,729	67.09

鳥取も新人常田氏

常田　享詳氏

開票結果（23日22時02分　選管最終）

当選106,246票	常田　享詳	51	（無所属新）
97,548票	吉田　達男	60	（無所属前）
97,331票	小野ヤスシ	55	（無所属新）
11,653票	小村　勝洋	40	（共産新）

鳥取選挙区（改選数一）は即日開票の結果、新進党と公明の推薦を受けた無所属新人の常田享詳氏（五一）＝元県議会副議長＝が、再選を目指した社会党推薦で無所属前職の吉田達男氏（六〇）＝農林水産政務次官＝と自民党推薦で無所属新人の小野ヤスシ氏（五五）＝タレント・俳優＝に、それぞれ九千票近くの差をつけて、初当選を果たした。新進党としては初陣に勝利し、県内での組織づくりに拍車が掛かりそう。共産党新人の小村勝洋氏（四〇）＝党県書記長＝は及ばなかった。投票率は六七・五七%で、前回の六七・二九%を辛うじて上回ったものの、全国的にはトップ。

開票は午後六時半から順次スタート、常田氏と小野氏が競り合う形で進み、同九時四十五分、ようやく常田氏が当選を決めた。

常田氏は、新進党が推す初の候補として、同党県連会長の石破茂衆院議員と二人三脚で運動を進めてきた。両氏の後援会と公明県本部、県民社協会・友愛会議の四本柱がそれぞれがフルに活動し、落選した五十五年の衆院選の雪辱を果たした。

吉田氏は、六年前に廃止を掲げた消費税の税率引き上げを村山内閣で決めたことや、新党と絡む社会党の先行き不透明感が災いした。農林水産政務次官の実績を訴えたが、頼みの労働組合の動きがもう一つで、連合の股さきも響いた。

小野氏は出馬表明が公示一カ月前と出遅れ、最後までばん回し切れなかった。相沢英之、平林鴻三両自民衆院議員の後援会がフル稼働したが、"タレント候補"とのイメージが自民党支持者にやや敬遠され、届かなかった。

小村氏は他党のオール与党化への批判票を掘り起こせなかった。

比例代表党派別得票

鳥取（23時00分現在）

	得票数
自民	42,809
社会	33,165
新進	43,870
共産	6,184
平和	335
二院ク	1,620
スポ平	2,510
さきが	2,107
連帯	44
青自党	351
み農連	410
さわ新	1,452
国民党	296
いしん	390
全ドラ	481
新自由	1,248
浄霊会	37
新時代	251
雑民	44
世直し	186
UFO	167
教育	213
福祉党	1,280

島根（23時17分現在）

	得票数
自民	128,411
社会	63,150
新進	71,845
共産	19,444
平和	927
二院ク	3,268
スポ平	3,922
さきが	10,479
連帯	167
青自党	569
み農連	821
さわ新	2,179
国民党	338
いしん	1,154
全ドラ	1,172
新自由	2,149
浄霊会	93
新時代	467
雑民	194
世直し	298
UFO	416
教育	331
福祉党	1,439

視力0.1以下でもアキラメルナ！近視・乱視・遠視・老眼の方もダイジョウブ！

視力回復トレーニング講座™

c 1987 BERESFORD VISION THERAPY INCORPORATED ★アメリカ視力回復協会編

下の封書を切り取り、必要事項を記入して、今スグお送り下さい!!

のりしろ（全体にのりをつける）

料金受取人払
杉並局承認
61
差出有効期間
平成8年1月
23日まで
切手はいりません

166-□□

（受取人）
東京都杉並局私書箱第44号
日本視力回復協会
行

近視・乱視・老眼・遠視の方、お子さんからご年輩まで

見るだけでもタメになる案内書
無料急送!!
必要事項を記入して
切り取り、封書にしてポストへ！

G 50係　※住所は町名、番地などできるだけ詳しく記入してください。

氏名	フリガナ	性別	男・女
住所	〒　都道府県		
TEL		年令	

のりしろ（全体にのりをつける）

やま折り

近視が治らないなんて、誰が決めたのでしょう？　近視は決して遺伝ではないのです。
あなたの視力は今、いくつ？
0.01の方でも、アキラメルナ！
視力回復の本場アメリカで65万人の眼を救い、
日本でも29万人が、
効果を体験ずみなのです。
朝晩15分、数週間のトレーニングで、
あなたの
眼に
回復を。
※視力回復の度合には個人差があります。
※当講座は白内障や緑内障など眼の疾患を治療するものではなく、それらの障害の方は、眼科医に相談ください。

当協会はしつこい勧誘やセールスで、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。
キリトリ線

器具や薬は一切使いません！

封書の作り方（下のイラストを参考にしてください。）

▲キリトリ線にそって切る
▲折れ線にそって外側へ折る
▲のりをつけ封筒にする
▲必要事項を書きポストへ！

日本視力回復協会　〒166 東京都杉並局私書箱第44号　〒166 東京都杉並区成田東4-38-17

ぜひ無料資料を請求ください。左の封書を利用なさるか、お急ぎの方はお電話で、東京03(3318)6111までお気軽に！

お願い
当協会は、国内ですでに29万人の回復実績を持つ、アメリカ視力回復協会©の承認を受けた日本唯一の協会です。昨今、当協会の理論を模倣し、紛らわしい社名、広告で誤認させる団体が数多く見受けられますが、当協会およびアメリカ視力回復協会とは一切関係がありません。お申し込みに際しては、日本視力回復協会という表示を必ずご確認ください。

お子さんからお年寄りまで　回復を体験した喜びの声

浅井若菜（9歳）　このトレーニングを続けて数か月。現在では視力がずいぶんあがり、メガネをかけなくとも良くなりました。最近では学校も楽しくなり、以前よりまして、明るくなったようです。（母より）

加藤敦志（33歳）　始めてすぐに、テレビがぼやけずにはっきり色あざやかに見えるようになりました。訓練の効果が表われ、目の疲れもとれ、メガネをかけなくても平気だし、乱視も矯正されたようです。

新谷真理子（17歳）　貴社のビジョンテラピープログラムで視力回復訓練をした結果、0.06から確実に視力がアップ！　最初のうち辛いかも知れませんが、ポイント一でも向上すると、だんだん訓練が楽しくなります。

姫野明広（25歳）　フラッシュ現象が数週間後に表われ、順調に効果がでてきています。これまで他の方法もためしてみたのですが、効果がなく、このトレーニングが一番合っているように思えます。

玉田博巳（40歳）　細かいものを扱う仕事をしておりますので、以前から眼が疲れやすく困っておりました。もともと乱視もまじり、ひどい近視でしたが、この講座のおかげで、わずかな期間にすっかり回復しました。

田中清文（18歳）　左右とも弱視だったのですが、数か月でずいぶん回復しました。今ではメガネもぜんぜん使っていません。あのワズラワシサから解放されたと思うとうれしくて、感謝の気持ちでいっぱいです。

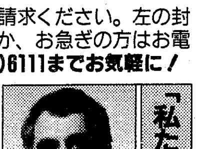
柴田梨花（12歳）　小学校三年生の時から眼が悪くなり、しょうがなくメガネをかけていましたが、友人からひやかされるのがとてもいやでした。そんな時、この講座に入会。今ではメガネも外し、学校の成績も上がりました。

三好みゆき（31歳）　弱視で困っていましたが、今では自宅でコンタクトは使用しておらず、裸眼での読書もつらくありません。ブリンキングやブルアゾーニングを多くとり入れています。今ではすっかり回復しました。

若山到（29歳）　不規則な生活で視力が低下。この講座を知り、やってみたら、ずいぶん良くなり、現在ではすっかり回復しました。朝晩のメニューは、なれれば意外に平気ですよ。私も友人に勧めています。

本田由利子（55歳）　このトレーニングを始めて本当に良かったと思っております。視力には自信がありませんでした。若い時、運転のためにとかけたメガネですが、私には合いませんでした。乱視も治り、今は快適に暮らしています。

「私たちがこのトレーニングを開発しました。」



ユージン・クォーリー博士

★ユージン・クォーリー博士　カリフォルニアを中心に視力眼科博士として視力回復法と科学的な眼の研究、実際の訓練指導を続け、このプログラムの開発に努めた。
★リチャード会長　視力回復のためアメリカ視力回復協会を設立し、このプログラムの開発と普及に尽力。世界の眼科医界に大きな影響をあたえ続けている。

体験者の言葉は原文のままです。